OpenRTM-aist (C++) - 機能 #530

メモリリークチェックのためのテストの作成

2009/04/14 09:24 - n-ando

ステータス:	終了	**開始日:**	2009/04/14
優先度:	通常	**期日:**	
担当者:		**進捗率:**	100%
カテゴリ:		**予定工数:**	0.00時間
対象バージョン:			

説明

メモリリークチャックのためのテストを作成する。
特に、CORBAオペレーション呼出においてリファレンスカウントの不整合によるリークを検出するためのツールを作成する。
したがって、C++コード内の細かいリークについては検出できない可能性がある。

対象とするCORBAオペレーションは以下の2系統とする。

- ステートレスな呼び出し
- ステートフルな呼び出し

テストにはPythonおよびrtc_handleを使用したLinuxで動作可能なテストスクリプトを作成すること。
リークチェックついては、当該関数を適当な回数呼び出し、RSSを見て増加しているようであればリークしていると判断する。
ステートレスな呼び出しテストに関しては、1オブジェクト1スクリプト、
ステートフルに関しては、対象オペレーション一つにつき1スクリプトを原則とする。

履歴

#1 - 2009/04/15 18:00 - kurihara

- ステータス を 新規 から 担当 に変更

- 進捗率 を 0 から 10 に変更

進捗 2009/04/15 ：作業割り当て表の作成　(栗原)

内部Wiki > [リリース作業マニュアル] > [メモリリークチェック] に記載

#2 - 2009/04/20 09:54 - 匿名ユーザー

- 進捗率 を 10 から 50 に変更

進捗詳細は、内部Wiki > [リリース作業マニュアル] > [メモリリークチェック] に記載

#3 - 2009/04/27 09:11 - 匿名ユーザー

- 進捗率 を 50 から 100 に変更

#4 - 2009/05/18 13:53 - 匿名ユーザー

- ステータス を 担当 から 終了 に変更